

政策分析シート（平成25年度）

政策名	利便性の高い都市基盤の整備		政策No	12	部名	防災都市づくり部		
関連部名					部長名	斉藤	内線	2800
行政評価事業体系	分野	安全安心都市[]						
目的	道路、公園等の都市施設の整備、駅前再開発の推進、防災街づくりの推進、公共交通網の整備等により、防災安全性が高く、良好な住環境の市街地に改善する。							
指標	政策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明	
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (28年度)		
	景観条例に基づく行為の届出率	-	-	100%	100%	100%	届出件数 / 対象件数	
	都市計画道路の整備率	58.1%	58.1%	58.1%	58.1%	70.0%	完成延長:5,160m / 計画延長:8,886m (平成25年3月末時点) 23区平均:62.4%(24年3月末時点)	
	バリアフリー基本構想策定の進捗率	70%	80%	90%	100%	100%	区全体基本構想策定:60%、重点整備地区別計画策定:1地区につき10%増	
市街地再開発事業の進捗率(全地区)	83.8%	86.3%	86.8%	89.5%	95.0%	事業段階及び工事の出来高(全地区の平均)		
現状と課題(指標分析)	<p>都市計画道路整備の促進により完成率は、23区全体の62.4%に対し荒川区は58.1%である。</p> <p>日暮里地区など震災復興や戦災復興区画整理事業で街区が整った街並みも存在するが、区の6割強は狭隘な道路に木造住宅が密集した市街地となっており、首都直下地震が想定される中、早急に防災まちづくりを進める必要がある。</p> <p>防災安全性の高い街づくりや駅前に相応しい開発等、地区特性に合わせた適切な開発を誘導する必要がある。</p> <p>17年4月のコミバスさくら、8月のつくばエクスプレス、20年3月の日暮里・舎人ライナー、20年10月のコミバス汐入さくら、22年7月の成田スカイアクセス、24年10月のコミバス町屋さくらの開業など、区内の公共交通網は充実し、利便性の高い街となっている。</p> <p>少子高齢化の進行等に対応して、これまで以上に街のバリアフリー化を進めていく必要がある。</p> <p>街づくりにおける景観への配慮など、街の質を高め、住んでいて良かったと感じられる美しい地域づくりが求められている。</p>							
今後の方向性	<p>《今までの成果及び指標分析を踏まえて》</p> <p>都の創設した木密プロジェクトを活用し、防災都市づくりを進める。</p> <p>街の骨格となる都市計画道路の整備や生活道路の拡幅をさらに進め、都市の基盤づくりを確実に進めていく。</p> <p>再開発による拠点整備を進め、多様な都市機能が集積した、安全で活力ある市街地を形成していくとともに、災害に強い街づくりを進めていく。</p> <p>新たな荒川区バリアフリー基本構想に基づき、各地区の基本構想を策定し、人にやさしい街づくりを進めていく。</p> <p>都電沿線や隅田川沿岸など、景観に配慮した街並みを誘導し、美しい街づくりを進めていく。</p>							

政策を構成する施策の分類

施策名	政策推進のための分類		分類についての説明・意見等
	25年度	26年度	
総合的な市街地整備の推進[12-01]	重点的に推進	重点的に推進	秩序ある街づくりを進めていくためには、将来像を見据えた区の都市計画マスタープランに基づく、総合的な市街地整備が必要である。
都市計画道路の整備[12-02]	重点的に推進	重点的に推進	都市計画道路の整備率を23区の水準まで引き上げる。
総合的な交通体系の整備[12-03]	重点的に推進	重点的に推進	公共交通網の整備を推進するとともに、だれもが安全で安心して暮らせるような様々なバリアフリー化を図る必要がある。
市街地再開発事業等の推進[12-04]	推進	推進	それぞれの駅前の特性を生かし、商業、業務、駅前住宅等を集積させ、地域の安全と活性化を図る。